

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<https://araikinuyo.jp/>

過去最大規模、一般会計重点はコロナ対策 県の来年度当初予算案総額4兆6185億円

総額4兆6185億円余に上る神奈川県の2022年度当初予算案が、2月10日開会の県議会2022年第1回定例会本会議に提案され、議会で審議のうえ、3月25日開会の本会議で採決される見込みです。一般2兆3448億円、特別（国民健康保険など）2兆1162億円、企業（水道事業など）1574億円の3会計合わせた額は4兆6185億8500万円で、前年度当初予算より8.8%増え、5年連続で過去最大を更新したことになります。これは海外経済の回復に伴って企業収益が好調に転じたこと、個人消費の落ち込みが予想を下回ったことなどで個人県民税、法人2税が大幅に増収となったことが背景にあります。こうしたことから、県の借金面も大幅に改善。新規国債発行額は前年度の最終予算で2878億円だったものが新年度の一般会計当初予算案では1719億円に減、臨時財政対策債（国の交付金制度がらみで発行が認められた債権）は同2177億円だったものが同840億円となっています。それでも県債額は年度末現在で3兆2204億円あるのが現状です。

県では一般会計当初予算案を編成する際、「新型コロナウイルス感染症から命と暮らしを守り新しい日常に向かう」を念頭に置いたとしており、同感染症対策として当初予算では3182億円、これに前年度の2月補正予算の730億円を合わせた3912億円を計上しています。これには福祉サービス提供体制の維持、県内経済回復に向けた支援なども含まれています。同感染症の拡大防止と医療体制維持のため当初予算に3246億円が計上されており、2800床分の病床確保、宿泊療養施設約3800室の借り上げ費用などを見込んでいます。

このほかに同予算案の中で着目した項をあげてみますと。
【コロナ禍における困窮者対策】 新規事業＝◇母子等の自立支援施設の整備（未利用県有施設を活用して生活の基盤となる住戸を整備する）。具体策はこれからなので現時点では予算額の計上なし。◇ケアラー（家族などを介護する人）・ヤングケアラーへの支援＝SNSや電話での相談窓口を設け、支援相談員2人程度を置く。ヤングケアラーの学習支援などを行う。5229万円。

【安全で安心してらせる神奈川】 当初予算1291億円。地震災害対策、風水害対策の推進、犯罪や事故などのないまちづくりに取り組む。急傾斜地崩壊対策を令和4年度から10年度にかけて重点的に実施。53億円。

【デジタルを活用した取組の推進】 新規事業＝◇行政手続きのオンライン化とキャッシュレス化の推進（既に280手続きでオンライン化されているがこれを400程度に拡充する）など。4051万円。◇同感染症対策ロボット開発支援事業（ロボットプロジェクトの公募など。募集開始は4月）。3014万円。



コレが言いたい!

令和3年度の税収は、海外経済の回復や株取引の好調、国内消費活動の落ち込みが想定より小さかった事などにより、大幅な増収が見込まれます。また、令和4年度も企業収益の増益基調や消費活動の持ち直しなどが続く見通しとなっています。しかし、1月の世界銀行の発表では、2022年の世界経済は減速する懸念がある事が予想されています。本県も世界経済の減速による影響や石油・天然ガスなどの高騰、サプライチェーンへの影響や株価により、令和4年度の税収も大きく変わる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、今後も感染症対策や県民生活に直結した事業にしっかりと対応していくためには、財政基盤の強化が不可欠であり、時期に応じた政策の展開を行う必要があります。



神奈川県警察では、落とし物、忘れ物について、インターネットの簡単な操作で検索することができます。また、インターネットから、いつでも県内の警察署長宛に届出ができます。

落とし物・忘れ物
検索サイトへ



磯子あれ? これ?

宝樹山 広度院 金台寺 (磯子区栗木)

当地は、飛鳥時代の安閑天皇元(534)年より屯倉として御堂が建立され、穀物・塩・^{ひわた}檜皮等を献上しました。江戸期の貞享元(1684)年、幕府の直轄地となり翌年、家康公の施策である天下泰平の国造りの為、全国16000ヶ寺の寺院学舎開校の一つとして光蓮社名誉上人・善阿闍道和尚が開山となって建てられました。明治維新後、廃仏毀釈による廃寺強制の時代、金台寺学舎と公示しましたが、法難の風潮が著しく二十世中興名誉上人の呼びかけにより、栗木村の全戸が宗門を改め檀徒となり、金台寺は村の菩提寺として再建されました。

もとは、本堂裏南側の高台にありましたが、昭和31年の豪雨により本堂ならびに境内が崩落しましたが、昭和35年現在の場所に本堂が建立されました。

寺宝は善光寺式阿弥陀三尊像で、関東大震災殉難者26000人の鎮魂を願い、信州の善光寺の尼宮様・大宮智栄大僧正から預かり中区伊勢佐木町に善光寺別院を開き、同像を祀りました。これは先の大戦により、戦火を逃れ金台寺に疎開して現在も当寺に安置されています。

参考:金台寺資料、住職のはなし



活動報告

2月25日(金)、一般社団法人日本ケアラー連盟による「ケアラー」に関する勉強会が開催されました。日本ケアラー連盟は、「介護される人、する人の両当事者がともに尊重される」「無理なく介護を続けることができる環境を醸成・整備する」などを目的に活動しています。

家族にケアを要する人がいる場合に、18歳未満の子どもが大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている「ヤングケアラー」への支援が急務となっています。

昨年6月に私が行った代表質問により、ケアラー本人に対して相談窓口や利用できるサービスなどの情報を提供するヤングケアラーを含めたケアラー専門のポータルサイトが昨年10月に県HPに立ち上がりました。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/株メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- 安全安心特別委員会委員
- 自民党県議団政務調査会筆頭副会長
- かながわ自民党女性議員局長

